

ラヴァン・ハサノフ

バクー国際多文化主義

センター常務理事

# 歴史的正義の回復

19-20世紀に、世界で非常に深刻なプロセスが発生しました。19世紀初頭のロシアによるコーカサス占領の結果、この地域の民族地図は深刻な変化を遂げました。20世紀、第一次世界大戦と第二次世界大戦の終わりに、世界地図は2度書き直されました。20世紀末、

ソ連という超大国の崩壊に伴い15の新たな国家が誕生し、その結果国家紛争地域が出現しました。民族分離主義は、これらの紛争の発生に大きな役割を果たしました。

コーカサスで起こっている民族政治的プロセスを時系列の観点から見てみましょう。



アゼルバイジャン人のアルメニアからの強制送還。1988年



このアゼルバイジャン人の家族の財産はすべて略奪されました。アルメニア 1980年代後半



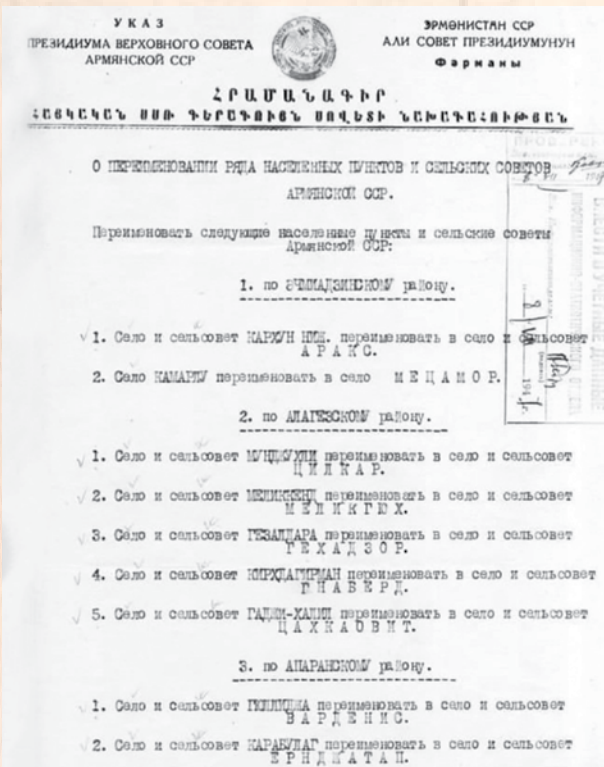
ロシアが1801年に東グルジアを占領し、1813年に北アゼルバイジャン・ハン国の一部を占領し、1828年にすべてを占領した後、イランとトルコから移住してきたアルメニア人によってコーカサスの民族的景観は大きな変化を遂げました。

1828年2月10日に調印されたトルクメンチャイ条約によれば、最後の北アゼルバイジャン・ハン国であるイラヴァン・ハン国とナフチヴァン・ハン国はロシアに加われました。3月21日、ニコライ1世はイラヴァン・ハン国とナヒチェヴァン・ハン国の領土を含む「アルメニア州」創設に関する法令に署名しました。しかし、当時、アルメニア人はこの地域では少数民族でした。1829年から1832年に「アルメニア州」で実施された院生国勢調査の結果によると、5万7千266人(1万631家族)のアルメニア人がイランとトルコから「アルメニア州」の領土に移住しました[1]。ロシア・イラン戦争(1826～1828年)およびロシア・トルコ戦争(1828

～1829年)の結果、359のイスラム教徒の村が破壊され、人口の大部分が破壊され、残りは難民になりました。当時、アルメニア人は「アルメニア州」の1111の集落のうち、(教会の周囲の)わずか62の村に住んでいました。イランから再定住したアルメニア人はイレヴァン・ハン国の119の村、ナヒチヴァン・ハン国の72の村に定住し、トルコから再定住したアルメニア人はイレヴァン・ハン国の128の村、ナヒチヴァン・ハン国の4つの村に定住しました。イラン領土からのアルメニア人の移送を主導したロシア軍アルメニア系大佐ラザレフが書いたように、アルメニア人はアゼルバイジャンの地に「新たな故郷」を手に入れつつあります。その結果、1828年から1830年にかけて、4万人のイラン人と8万4千人のトルコ系アルメニア人が南コーカサスに移住し定住しました[2]。1877年から1878年の露土戦争の後、数万人のアルメニア人が旧アゼルバイジャン・ハン国の領土に移住させられました。この段階



アゼルバイジャン語の地名変更に関するアルメニア・ソビエト社会主義共和国最高評議会幹部会の布告



で、歴史上初めて、現在のアルメニア領土内でアルメニア人の数がアゼルバイジャン人を上回り始めました。

19世紀の90年代にトルコで起きたアルメニア人の反乱の結果、約30万人のアルメニア人がコーカサス地方に移住し、その結果、この地域は流血の惨劇と化しました。ロシア支配層の親アルメニア的立場を利用するアルメニア人が、1905年から1906年にかけて、南コーカサスにアルメニア国家の基礎を確立するために、アゼルバイジャン人が居住する地域で武力による民族浄化政策を実行し始めました。一般的には、1905年から1906年にかけて、アルメニア人は南コーカサスの15地区(イラヴァン、ナクチェヴァン、シャルル・ダレラヤズ、ノボ・バヤズイド、エチミアジン、アレクサンドロポリ、スルメリ、シュシャ、ジャヴァンシール、ジャブレイル、ザングズル、ガンジャ、ガザフ、アレシュ、ボルチャリ)と7都市(バクー、イラヴァン、ナヒチェヴァン、シュシャ、ガンジャ、ガ

ザフ、トビリシ)で大量虐殺が行われました。1905年から1906年の虐殺では、南コーカサスの286の集落が破壊されました[3]。推定によると、破壊された村や町のうち約200がアゼルバイジャンの居住地に属しています[4]。破壊されたアゼルバイジャン人の居住地の一部は、それ以来廃墟と化しています。南コーカサスのアルメニア人の飛び地はその時に作られました。1905年から1906年にかけての大虐殺は、南コーカサスのアルメニア人が自ら国家を樹立するための新たな土地を獲得するために行った民族浄化政策の一部であり、その第一段階であると考えられています。

1917年11月にロシアで起きたクーデター後、ロシア軍の一員としてコーカサス戦線でトルコと戦ったアルメニアの兵士と将校は武器を手に南コーカサスに帰還しました。さらに、アルメニア人が「西アルメニア」と呼んだ東アナトリアから約26万人のアルメニア人難民がこの時期に南コーカサスにやって来て、主にイラヴァン県に避難していました[5]。1918年3月まで、アルメニア武装勢力はイラヴァン州だけでも198の村を破壊し、約13万5千人のトルコ系イスラム教徒を虐殺の対象としました[6]。アゼルバイジャン人に対して民族浄化政策を行ったアルメニア人の目標は、イラヴァン県の領土に「トルコ人のいないアルメニア」国家を創設することでした。

1918年5月28日、アゼルバイジャンとアルメニアの独立が宣言されました。5月29日、イスラム国民評議会の会議で、エレバンをアルメニアの政治的中心地として認める決定がなされました[7]。アルメニア共和国がイラヴァン県の領土の一部に設立されたとき、その領土は約1万平方キロメートルに相当しました[8]。その期間中、アゼルバイジャン民主共和国の議論の余地のない領土は9万7千297.67平方キロメートルでありました[9]。

1918年10月30日に署名されたムドロス協定によると、トルコ軍が南コーカサスから撤退した後、イラヴァン県の領土におけるア



ゼルバイジャン人に対するアルメニア人の大規模な略奪と虐殺はアルメニアにソ連の権力が樹立されるまで続きました。1916年には37万3千582人のアゼルバイジャン人がイラヴァン県に登録されていたが、1920年11月にはアルメニア・ソビエト連邦に残っていたアゼルバイジャン人はわずか1万2千人でした[10]。1922年には13万人のアゼルバイジャン人が祖国に帰還することができました。

第二次世界大戦の終わりに、ソ連はトルコに対して領土を主張しました。ヨシフ・スターリンは、1914年に定められたロシアとトルコの国境を回復すること、つまりカルス州とアルダハン州を再びトルコから分離することを望んでいました。その言い訳は、トルコとドイツは同盟国だったからであります。トルコに対するアルメニア人の領土主張は、ソ連の攻撃計画と一致しました。しかし、ソ連がトルコから分離したいと考えていた領土の入植地を解決するという問題に直面しました。この問題はアルメニア人を海外からアルメニア領土に移送することによって解決したかったのです。海外から連れてこられたアルメニア人を定住させるためには、村を更地にしなければならなかったです。

彼らはアゼルバイジャン人を歴史的な土地からアゼルバイジャンに移住させることでこの問題を解決しました。1947年12月23日、ソ連閣僚理事会は「アルメニア・ソビエト連邦からアゼルバイジャン・ソビエト連邦のクル・アラズ低地への集団農民およびその他のアゼルバイジャン国民の移送に関する」決定を採択しました。この決定により、10万人のアゼルバイジャン人がアルメニアの22の地域から移住することになりました。決定の第1項では、1948年に1万人、1949年に4万人、1950年に5万人の再定住が規定されていました[11]。の決定の実施中、権威主義的全体主義的ソビエト政権の既存の弾圧規則が暴力的な手段によって実施されました。24の地区とエレバン市の200以上の居住地から約10万人のアゼル

アルメニアからのアゼルバイジャン人の大量強制移住。1948年







ロシア軍によるエリバン要塞の占領。アーティスト F. ルーポー、1893年

バイジャン人が強制送還されました。アゼルバイジャン人の再定住に関してソ連政府が下した決定は、アルメニア政府にエレバン市周辺とアルメニアとイラン、トルコとの国境沿いにある既存のアゼルバイジャン人居住地のほとんどを地図から完全に追放する機会を与えました。

アルメニアでは、60年代半ばに再び反トルコ・反イスラムのプロパガンダが開始された。1965年、架空の「アルメニア人虐殺」50周年を祝う決定がアルメニア人の排外主義をさらに煽りました。1985年にミハイル・ゴルバチョフがソ連共産党書記長に選出されると、ナゴルノ・カラバフのアルメニア人の民族自決を装ってアゼルバイジャンに対する併合計画が策定されました。ナゴルノ・カラバフのアルメニア人の自決を目的としたアゼルバイジャン併合計画の実行を阻止できる唯一の人物—ヘイダル・アリエフが1987年10月にアルメニアロビーの圧力を受けて、ソ連共産党中央委員

会政治局のメンバーからとソ連閣僚評議会の第一副議長の職からも外されました。1988年2月20日、アルメニア人議員のみの参加で開催されたナゴルノ・カラバフ自治州人民代議員評議会の臨時会議は、同州をアゼルバイジャンから削除し、アルメニアの行政区域に含める決定を採択しました。アゼルバイジャンはソビエト社会主義共和国最高会議がナゴルノ・カラバフ自治州人民代議員評議会の違憲決定を拒否した後、アルメニアの民族主義指導者らは、「ダシュナクストゥン」党の「トルコレス・アルメニア」計画の実施を開始しました。1988年2月27日から28日にナゴルノ・カラバフとアルメニアでのアゼルバイジャン人に対する暴力に対する抗議のしるしとして開催された集会の後、国家安全委員会の計画とアルメニア過激派の直接参加により、スムガイトで大規模暴動が発生しました。その後、アルメニアからの新たな難民の波が始まりました。ロシアの歴史家ユーリ・ポンペーエフ



イラヴァン・ハン国の旗、18世紀。アゼルバイジャン国立歴史博物館



は、1988年秋のアルメニアからアゼルバイジャン人の強制送還について次のように述べている。「無防備で武器も持たないアゼルバイジャン人は通常、裸で何も持たずに『くそつたれトルコ人、アルメニアを追い出せ!』と言って家から追い出されました。」「[13]。11月22日にアゼルバイジャン議員の参加せずに、アルメニア・ソビエト社会主義共和国最高会議に地区指導者らに、1週間以内につまり、11月28日までに、アルメニアからアゼルバイジャン人を排除する行動を完了することが開催されました。1988年から1989年にかけて、モスクワがアルメニア人を支援した結果、現在のアルメニア領土内にあるアゼルバイジャン人が住む170の純粋集落と94の混住集落が避難しました。アルメニアのメグリ地区のザンギラン地区に隣接する地域に残った最後のアゼルバイジャンの村、ヌヴェディも1991年8月8日に避難されました。一般に、最後の民族浄化の

結果、アルメニアの22の地方地区と6つの都市から約25万人のアゼルバイジャン人が、歴史的民族の土地から残酷にも追放されました[14]。

西アゼルバイジャンでかつてアゼルバイジャン人が住んでいた499の村は避難され、現在は廃墟となっています。これまでにアゼルバイジャン人に属する702の地名がアルメニア語化されています。アルメニア人は、かつてアゼルバイジャン人が住んでいた734の村に住んでいます。

一般に、過去200年間に、現在のアルメニア領土内にある2千以上のアゼルバイジャン人の入植地が、様々な方法で(国外追放、武力、大量虐殺、村の放火や破壊、等)上場廃止され、アゼルバイジャンの歴

史的な土地に単一民族のアルメニア国家が設立されました。

1988年2月にナゴルノ・カラバフでアルメニア分離主義が台頭した後、アルメニア指導部はモスクワの手でこの領土をアルメニアに併合することは不可能であることを認識し、まずは自治州の領土内に武装集団を創設し、彼らを通じて領土の主張を実現しようとした。

1991年から1994年にかけてのアルメニアの軍事侵略の結果、アゼルバイジャン共和国領土の20パーセント(ハンケンディ市、ホジャリ、シュジャ、ラチン、ホジャヴァンド、カルバジャール、アグダム、フズリ、ジャブレイル、グバドリ、ザンギラン地区)、さらに、タルタル地区の13村、ガザフ地区の7村、サダラク地区のナフチェヴァン1村がアルメニア軍に占領されました。アルメニアの根拠のない領土主張により、100万人以上のアゼルバイジャン人難民と



絶望。アゼルバイジャン人の家族。1980年代後半のアルメニア



国内避難民が発生しました。軍事作戦中に2万人が死亡し、5万人が障害者となりました[15]。

紛争解決を目的に設立されたOSCEミンスクグループは28年間、具体的な措置を講じませんでした。アルメニアは現状を維持するために交渉プロセスを人為的に延長しました。

アルメニアはアルメニア人の家族を海外から移住させて占領地に定住させ、地下資源と地上資源を略奪しました。イルハム・アリエフ大統領は流血のない交渉を通じて領土解放に向けて辛抱強く交渉しました。しかし、アルメニアは後援者に依存しており、土地を解放したくありませんでした。アルメニア人は幸福感に浸り、自分たちは「無敵」と考えていました。アルメニア国防大臣デビッド・トノヤンはアゼルバイジャンを新たな領土をめぐる新たな戦争で脅迫し、ニコル・パシニャン首相は「カラバフはアルメニアだ。ポイント」とは言われました。しかし、アルメニア人はアゼルバ

イジャン国民が占領と決して和解しないことを理解していませんでした。国家は宝石商のような緻密さで土地を占領から解放するための真剣な準備を進めていました。

アルメニアの挑発に応じて2020年9月27日に始まった反攻は44日で勝利に終わりました。世界最強の軍隊の一つであるアゼルバイジャン軍は、第二次カラバフ戦争での勇敢さで世界の軍事史に新たな1ページを書き加えました。アゼルバイジャン国民は、自分たちが無敵で誇り高いことを世界に再び証明しました。11月8日のシュシャ市の解放が戦争の運命を決定しました。11月10日、アルメニア首相は降伏法に署名しました。その後、アグダム、ラチン、カルバジャール地域は発砲することなく所有者に返還されました。バクーでは戦勝パレードが行われました。鹵獲されたアルメニア軍の軍事装備が展示されていました。これは、100年以上にわたって自分たちを「勝者」で「無敵」だと考えていたアルメニア人を、アゼルバイジャン軍がひざまずかせる



行為でした。これはまた、離散したアルメニア人とアルメニア人の後援者の敗北を意味しました。

アゼルバイジャンの歴史的領土、現在のアルメニアから時々追放されたアゼルバイジャン人は、西アゼルバイジャン共同体で団結しました。彼らは歴史的な故郷に戻るために戦っています。2022年12月24日、西アゼルバイジャン共同体の知識人グループとの会合で、イルハム・アリエフ大統領は、共同体がより組織された形で機能することは、西アゼルバイジャンの人々とアゼルバイジャン国民全体の両方にとって非常に重要になると述べました。カラバフの真実が世界社会に伝わるにつれ、西アゼルバイジャンの真実を伝えること、すべての国際条約で確立されている、西アゼルバイジャン人が歴史的民族の土地に戻る権利を確保するという要求や発表会や国際会議の開催などの必要性を述べました。

西アゼルバイジャンは世界人権宣言におけるコミュニティ、市民的および政治的権利に関する国際規約、難民の地位に関する条約およびその他の重要な国際法において確立された帰還の権利に基づいて、現在のアルメニアから追放されたアゼルバイジャン人の安全かつ威厳ある帰還とそしてそこに戻った後

イラヴァン要塞の計画。1827年の要塞襲撃前夜にロシア軍司令部によって編纂された。

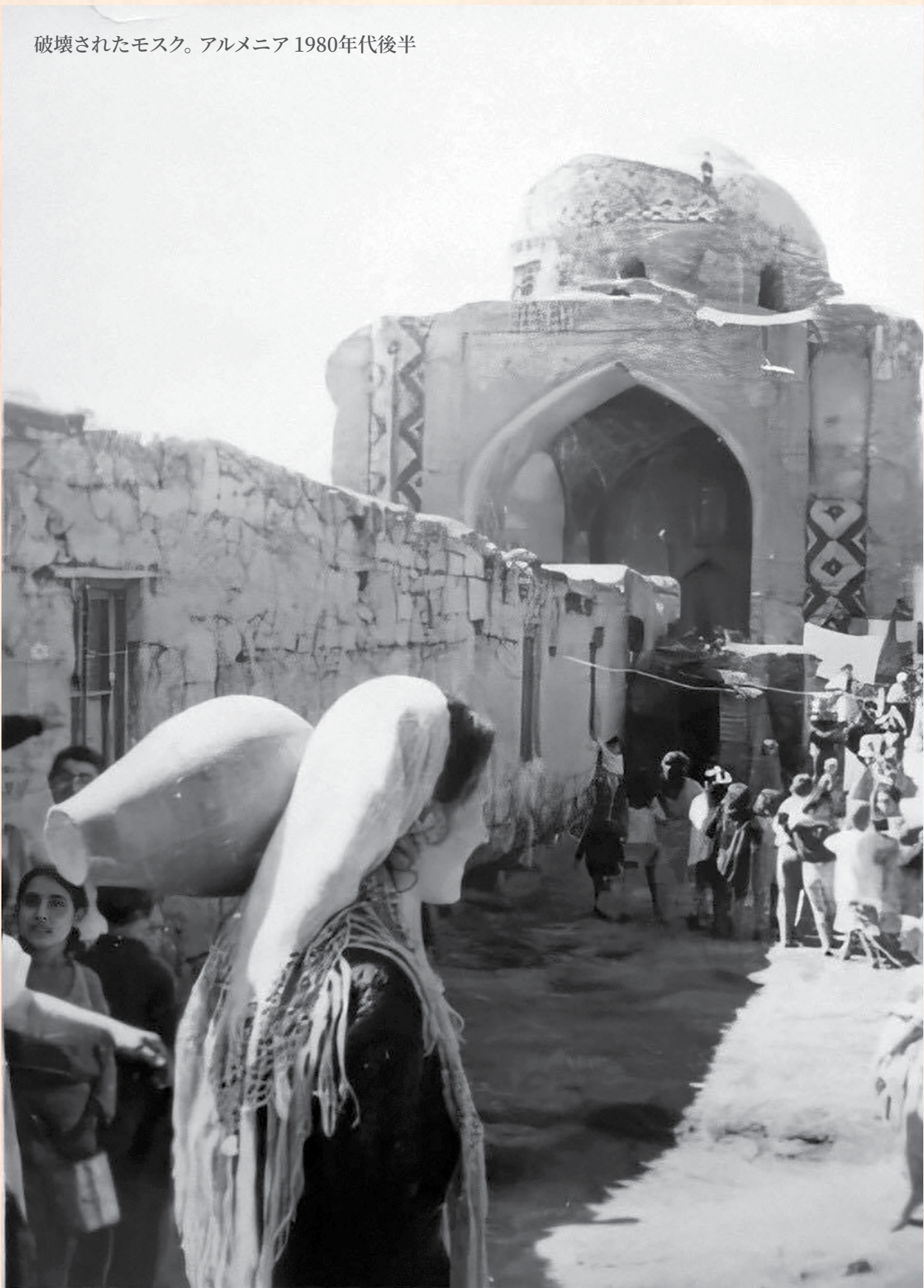


は、集団の権利を確保しようと努めます。帰還コンセプトは、2023年1月26日に西アゼルバイジャン共同体によって採択されました。この目的のために、アルメニア政府と国際機関の両方への訴えが受理されました。国連事務局は、「西アゼルバイジャン共同体の復帰構想」として国連安全保障理事会、総会、経済社会理事会の公式文書を発行しました。

アルメニア人が多文化アゼルバイジャンのカラバフ地域のコンパクトな地域に住んでおり、アゼルバイジャン国家が国民と同様にアルメニア人の権利と社会文化的発展の保護を確保する場合、アルメニア国家も、歴史的・民



破壊されたモスク。アルメニア 1980年代後半





## アゼルバイジャン難民の家族。アルメニア 1980年代後半



族的土地から追放されたアゼルバイジャン人がコンパクトな方法で祖国に戻り、安全に暮らせるようにするべきであります。そうなれば、歴史的不正義を排除することができ、国際人道法を確認することができます。◆

## 文献:

1. Шопен И. Исторический памятник состояния Армянской области в эпоху ее присоединения к Российской империи. СПб., 1852, с. 642
2. Шавров Н.Н. Новая угроза русскому делу в Закавказье: предстоящая распродажа Мугани инородцам. СПб., 1911, с. 63
3. Swietochowski Tadeusz. Russian Azerbaijan, 1905-1920. Cambridge University Press, 1985, p. 41
4. Ermənیلərin İrəvan quberniyasında və Zəngəzur qəzasında törətdikləri terror və qırğınlar: 1905-1906. Bakı: Elm və təhsil, 2022, s. 241
5. Государственный архив Азербайджанской Республики (ГААР), фонд 894, список 10, дело 80, лист 49-56
6. ГААР, фонд 970, сп. 1, д. 1, л. 52
7. История армянского народа: с древнейших времен до наших дней. Ереван, 1980
8. Адрес-календарь Азербайджанской Республики на 1920 г. Ч. 1. Баку, 1920
9. Коркодян Завен. Население советской Армении (1831-1931) (на арм. яз.). Ереван, 1932, с. 167
10. Архив политических документов Управления делами Президента Азербайджанской Республики, ф. 1, сп. 222, д. 48, л. 14-17
11. Mustafa Nazim. İrəvan şəhəri. Bakı: Red N Line MMC, 2020, s. 101
12. Помпеев Ю. А. Кровавый омут Карабаха. Баку: Азербайджан, 1992
13. Arzumanli Vaqif, Mustafa Nazim. Tarixin qara səhifələri. Deportasiya. Soyqırım. Qaçqınlıq. Bakı: Qartal, 1998, s. 126-127
14. Qarabağ Azərbaycandır! Bakı: PoliArt, 2021, s. 8